

令和5年度 第4回狛江市基本計画推進委員会 会議録

- 1 日 時 令和5年9月6日（水）午後7時00分～午後8時56分
- 2 場 所 狛江市役所 第1委員会室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁  
委 員 村上 裕章 委 員 河内 広樹  
委 員 佐藤 慶 委 員 佐藤 淳哉  
委 員 名古屋 信夫 委 員 水谷 成江  
委 員 高橋 良典  
事務局 富田政策室長 中村企画調整担当主査  
宇野企画調整担当主任 大久保企画調整担当主事
- 4 欠席者 副委員長 上田 英司
- 5 議 事 1 評価対象施策A「地域コミュニティ・都市間交流の推進」の評価について  
2 評価対象施策B「地域の防犯体制の充実」の評価について  
3 評価対象施策C「地域で暮らすための生活支援」の評価について  
4 SDGsに対する評価の資料等確認について  
5 その他

6 会議概要

- 1 評価対象施策A「地域コミュニティ・都市間交流の推進」の評価について

—事務局から説明—

【委員長】

事務局の説明に対する御意見等あるか。

【委員】

情報提供について、強調して記載していただきたい。町会・自治会の情報提供については、回覧板・掲示板を使用しているが、時代に即した情報提供になっていないと思われるので、見直しについても記載したほうがよいのでは。

【事務局】

町会・自治会のデジタル化に寄与することを目的としたデジタル推進講演会「LINE講演会」を実施したので、追記する。

【委員】

町会・自治会の加入促進のチラシが転入者向けとなっている。既存の未加入者へのアプローチも必要かと思う。また、町会・自治会連合会の会議結果の公表があってもよいのでは。

**【委員長】**

町会・自治会については、活動内容がわからないということで、未加入につながることも考えられるので、未加入者にも活動が分かるとよいかもしれない。町会・自治会の加入促進のチラシの内容が分かりにくい。もう少し、町会・自治会の未加入者が町会・自治会の情報にアクセスしやすいような記載にしていきたい。また、町会・自治会活動の透明化を図っていただきたい。

**【委員】**

提言を含め全体的に文章が長い。論点ごとに区切るなど提言の表記を見直していただきたい。また、提言に若い世代向けの視点を盛り込んでいただいた方が良い。

**【委員長】**

施策全体の意義の記載があった方がよい。若い世代向けの視点、特に子どもの視点の記載があるとよい。

**【委員】**

町会・自治会は自主的な活動として位置づけられているため、踏み込んだ内容のように感じられる。市民目線だと町会・自治会未加入者としては、加入によるメリットが感じられない、町会・自治会に加入すると付き合いが増えるといったデメリットから未加入を選択しているように思う。すでに実施している町会・自治会もあるかもしれないが、町会・自治会の活動内容等をネットで公開してもよいという町会・自治会があれば、広く周知することも効果的だと思う。

**【委員長】**

どのような理由で町会・自治会に加入しないのかを整理した方がよい。他自治体の町会・自治会の活動内容や加入状況の把握に努め、情報提供すると良い。

**【委員】**

市民活動支援センターの説明を提言に入れた方がよい。

**【委員】**

SDGs の評価を評価対象施策毎に行うのか、SDGs の評価として提言をまとめるのか説明していただきたい。

**【事務局】**

SDGs の評価については、個別の施策評価で行うのではなく、「SDGs の評価」として、評価・提言をしていただきたい。

2 評価対象施策B「地域の防犯体制の充実」の評価について

—事務局から説明—

**【委員長】**

事務局の説明に対する御意見等あるか。

**【委員】**

「従来からの防犯施策について」の提言について、「意識啓発につながるような具体的な情報が発信されるよう配慮していただきたい。」との記載があるが、情報発信は、配慮する事項ではないので、「配慮していただきたい」ではなく、「発信していただきたい」と修正していただきたい。また、提言内容が防犯カメラの設置を目的にしたような記載となっているので、防犯カメラの設置が地域の防犯体制の充実につながる提言となるような記載にしていただきたい。

**【事務局】**

提言の内容については、表現を改める。

**【委員】**

1月に発生した強盗殺人事件については、記載があっても良いのでは。提言内容の構成についても見直していただきたい。特殊詐欺、防犯カメラ、公園の順に記載すると良いのでは。

**【委員長】**

体感治安の提言を最初にし、全体の構成を見直していただきたい。

**【委員】**

施策評価シートの総括欄の記載も併せて整理していただきたい。

**【委員長】**

それぞれの課との連携についても記載していただきたい。花いっぱい事業の苗は、決まった団体に定期的に配付しているのか。

**【事務局】**

申込のあったアドプト団体に配付している。

**【委員長】**

三島市でも同様に花いっぱい事業を実施しているが、三島市では、申込のあった団体に1度、苗を配付した以後は団体の自主管理に任せ、市は苗を提供しない。

同じところに定期的に苗を配布する事業が、持続可能性のある事業なのかどうか、考えていただきたい。

**【委員】**

環境整備だけでなく、市民が花いっぱい事業の活動をすることが防犯につながる等の記載があっても良いのでは。また、実際に市民が行っている防犯の取組の情報発信についても記載があると良い。

**【委員長】**

提言に市民自らが市の安全を守っているという当事者意識についての記載があるとよい。

**【委員】**

指標Aの市内刑法犯認知件数から凶悪犯を除くとしている理由を伺いたい。

**【事務局】**

凶悪犯が犯罪を犯さない防犯体制の構築は、市の取組では構築することが難しいとの議論があったため、凶悪犯は除くとしている。

**【委員】**

そうであるならば、凶悪犯は除くとしている理由を記載すべきでは。また、犯罪認知件数の目標値の記載については、表現を工夫していただきたい。

**【委員長】**

凶悪犯を除くとした理由は、市の取組で防止できるのは機会犯罪までであり、凶悪犯罪の防止については、警察で取り組むべき施策であるため、指標は凶悪犯を除くとしている。

**【委員】**

犯罪の種別にこだわらず、やれることはやるというスタンスでも良いのでは。

3 評価対象施策C「地域で暮らすための生活支援」の評価について

—事務局から説明—

**【委員長】**

事務局の説明に対する御意見等あるか。

**【委員】**

チームオレンジの数を増やすのと同時に効果的な活動をバックアップできることを市の取組として期待している。

**【委員長】**

チームオレンジが広がっていくような環境整備を市で実施していただきたい。また、提言にもその旨を記載していただきたい。

**【委員】**

チームオレンジができたということは評価できる。「評価した」という記述を追加していただきたい。

**【委員】**

指標Cの医療・介護・地域資源マップシステムアクセス数が令和4年度で増えている理由を伺いたい。

**【事務局】**

令和4年度から医療・介護・地域資源マップシステムを閲覧するだけでも、健康ポイント事業におけるdポイント付与の対象になったためである。

**【委員】**

数値が増えていることで成果が出ているのであれば総括等で触れても良いのでは。

**【委員】**

提言の「関係機関との情報共有等～」の記載は抽象的であり、分かりにくいので、

具体的に記載していただきたい。

**【事務局】**

具体的に記載するようにする。

**【委員】**

「地域」の内容が不明瞭である。市民目線の「地域」なのか、市内の一定の「地域」を指すのかについて、分かるようにしていただきたい。

4 SDG s に対する評価の資料等確認について

—事務局から説明—

**【委員長】**

事務局の説明に対する御意見等あるか。

**【委員】**

SDG s 評価シートが作成された過程について、説明していただけると議論がしやすいと思うがいかがか。

**【委員長】**

SDG s 評価シートが作成された時点では、ローカル指標はまだ作成されていなかったが、SDG s の評価については、ローカル指標も参考に評価していただきたい。

**【事務局】**

狛江市の施策と関連があると考えられる項目について、SDG s 評価シートに記載をしている。

**【委員】**

内閣府よりローカル指標が示された後にSDG s 評価シートの見直しを行ったのか。

**【事務局】**

SDG s 評価シートの見直しは行っていないが、本委員会ではローカル指標も参考にしながら、SDG s の評価を実施することとしている。

**【委員】**

SDG s の評価について、ゴールに対する具体的な説明や提言すべき方向性を事前に示していただかないとSDG s の評価や提言は難しいと感じる。

**【委員長】**

他の自治体でもSDG s の評価は難しいと聞く。基本計画の見直しの時に施策との関連を見直すという意見が多い。

**【事務局】**

SDG s の評価については、SDG s 評価シートの当初設定にとらわれずに関連すると思われることや今後の方向性について提言していただきたい。

本日、欠席の副委員長より次の意見をいただいている。「SDGsは2030年を期限とした目標であり、2023年が折り返し地点である。

経済的な格差が、コロナによって拡大し、目標達成までより野心的に取り組むべきことは多数ある。個別施策を組織横断的に連携し、統合的な取り組みを続けてほしい。」

**【委員】**

国の目標値を各自治体に配分されていたりするのか。

**【事務局】**

特にそのようなことはない。

**【委員長】**

あくまでも各自治体で目標を定めることとされている。

5 その他

質問がある場合は、事務局に連絡いただきたい。

次回の開催日は、9月14日とする。